

万防機構 万引防止セミナー開催 指扇中の生徒ら470人参加

NPO法人全国万引犯罪防止機構（河上和雄理事長）は6月20日、埼玉県警察大宮西警察署と大宮西地区販売犯連絡協議会主催による、中学生とその保護者を対象とした「万引防止セミナー」を実施。開催場所のさいたま市立指扇中学校では、1年生から3年生までの全校生徒と保護者合わせ、約470人が参加した。



講演中の稲本氏



吉澤署長

拳・補導された少年は2277人であり、そのうち万引で検挙・補導された少年は1166人と全体の5割を占めた。

万引は初発型非行と呼ばれ、少年非行の入口と称される。そこで万引セミナーを開催することで、少年たちに万引防止の気運を高め、少年の規範意識を醸成し、健全な育成を図る事としている。

セミナー冒頭、大宮西警察の吉澤健一署長は「7月6日から県内で万引撲滅週間実施される。その前にこのような万引セミナーが開催され警察としては喜ばしいことである。私は、大宮西警察署長の前に、少年捜査課長を務めていた。県内の少年犯罪を担当しており、暴走族やカラーギャングなど非行グループに入る高校生や中学生もいた。そのような少年たちの過去の補導歴を見ると、万引や自転車盗を犯したこのない少年はゼロである」とあいさつした。

続いて、さいたま市立指扇中学校の渡邊佑子校長が登壇し「私たちの生活には、様々な誘惑があるが、その中で、ルールを守り、安全な生活を送ろうとしている。誘惑に負けず良い生活、快適な生活、それを送るためにはどのような方法があるかこのセミナーを通じて生活を見直してほしい」と述べた。

引き続き、大宮西地区販売犯連絡協議会の荒井清会長は「万引は、少年非行の入口である。万引を軽い気持ちで犯してしまうことが多いが、重大な犯罪と感ずてもらいたい。万引に遭うと、お店もその家族も、そして万引をした者も不幸になつてしまつ」と訴えた。

セミナーの基調講演は、万引犯罪防止機構の稲本義範氏が講師として紹介された。稲本氏は「100円の品物を万引されると、お店の方は10倍、100倍の商品を売らないと利益を出せない。大変な労力とリスクを負つことになる」と述べ、万引の功罪に生徒らは熱心に聞き入っていた。

休憩を挟んで、埼玉県警察音楽隊による演奏ではAKB48の「恋するフォーチュンクッキー」の軽快な旋律に、生徒らから手拍子が起り、やがて踊りだすなど、和やかな中、「万引防止セミナー」は幕となった。